

## 相手を思いやる気持ち

### 1 教科等

#### 特別活動

##### 〔ホームルーム活動〕

#### 2(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

##### ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

### 2 題材

#### 人間関係づくり（LHR）自己理解・他者理解

### 3 生徒の実態と題材について

#### (1) 生徒の実態

素直で素朴な生徒が多いが、多様な生徒が在籍しており、他者とのコミュニケーションや人間関係の構築を苦手とする生徒が多い。他者との適切な距離のとり方だけでなく、自己肯定感が低く自分自身の存在意義や、置かれている状況を適切に把握できず、悩んだり苦しんだりする場面や、他者に対する思い込み・偏見ととれるような発言をする場面が見られる。一方で、総合的な探究の時間である閑谷學等で地域の方々とふれあい、その接し方からより良い社会の一員としてどのように自らを律しつつ、参画していけばよいか徐々に学び成長する姿が見られる。

#### (2) 題材選定の理由

本校では入学当初、より良い集団作りを目的として、アサーショントレーニングやアンガーマネジメントなど高校生活により早く適応できるように配慮した取り組みを続けてきた。令和7年度では体育館に新入生が集まって、短い自己紹介を全員とする「トークフォークダンス」や、小グループによるボードゲームを通してお互いに協力し楽しみながら解決するという企画を実施した。

また、教員を対象に稲田尚久氏（岡山コミュニケーション研修講演企画代表）を講師に、生徒への声掛けの仕方や気持ちの受け止め方等、生徒指導に役立つ内容で研修会を実施した。すべての生徒が安心して個性を出し、良さを認めることのできる高校生活になるよう努めてきた。

学年の教員としては、平素の何気ない学校生活の中から生徒一人一人を観察し、生徒の良さを見つけることに注意しながら支援してきた。学校祭でも「いい人展」と題して生徒同士が感じた友達のありがたさや、うれしかったことなどの展示を行うことができた。また、授業等において、生徒一人一人に合わせた多様な支援や、グループ学習を通してコミュニケーション技能向上のための取組が設定されている。

その一方で、気の合う仲間同士でないとグループ学習に参加できず、積極的に参加しようとならない生徒も見受けられるようになってきた。

学年の折り返し時期を迎え、友達との人間関係が固定化されてきてはいる。捉え方を変換する「リフレーミング」の技法を基に、誰もが安心してコミュニケーションをとることができ、失敗を乗り越え自己肯定感の確立につながる活動をする。具体的には、2回目のトークフォークダンスをおこない、これまでの学校生活を通して、友人の短所に目を向けるのではなく、長所を見たり、リフレーミングをしたりすることにより、集団としての高まりを実感することができる取組をおこなう。その結果、コミュニケーションも円滑になり、自他の人権が尊重され、誰もが安心して生活できる空間となるようにしたい。

#### 4 単元の目標

生徒が、クラス、学年の一員として、それぞれ違いのある人たちを尊重し、長所を発見することができることで、ものの見方により接し方が変化することに気づかせる。多様性を認識するだけでなく、いかなる属性も排除されない包摂性を養うことで、社会の一員として違いのある人たち（社会・学校など）を尊重し、受け入れる契機とする。

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リフレーミングの意味を理解している。感じたことを的確に表現し、相手に伝える力を身に着けている。	相手の意見を素直に受け止め、感謝を伝えている。また、他者を尊重した適切な言葉で自分の意見を伝えたり、他者への思いやりのある発言をしったりしている。	相手の話を聞き、自分の言動に相手を尊重する態度で参加しようとしている。

#### 6 指導上の立場

##### ○単元観

生徒一人一人がもつ長所を、他者から認められることにより、自分の気づかない価値を発見し、自己肯定感の確立の一助としたい。

##### ○生徒観

生徒達は落ち着いて学校生活を過ごすことができているが、コミュニケーションをとることに苦手意識をもつ生徒も多く、人間関係などに悩みをもったり、トラブルになったりする場面も多い。

##### ○指導観

否定する言動をしないなどのルールを確認させ、安心して活動できるような雰囲気をつくる。具体例を挙げながら思考のヒントを与え、様々な意見が出やすい雰囲気を作る。

#### 7 指導と評価の計画

小単元名	ねらい・学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
事前学習 (言語文化の授業)	他人の行動の良さに関心を持たせる。		他者の行動から、その人の良さに気づき言語化できる。	
	自分の行動や言動を意識させる。	言語文化の授業で自分の長所をふたえたり言葉に考まえる。		
講演会	講師からアサーティブなコミュニケーションの取り方や自己肯定感についての講演を聞く。			メモを取りながら聞ける。（行動の様子）
トークフォークダンス 振り返り (本時)	クラスごとに一つの輪を作り、相手の長所や言っている言葉をお互いにかきあう。その後、会話を続ける。 講演及びトークフォークダンスから気づいたこと、学んだことをワークシートに言語化し、発表する。	ルールに則って行動できている。（行動の様子）	他者を尊敬すべき存在として、真剣に考え、他の人に流されない表現をしている。（ワークシート） 自分の長所、他者への思いやりを感じる表現をしている。（ワークシート）	クラスや自他の良さを再認識し積極的に参加している。（行動の様子）

#### 8 本時(本実践)と人権教育

○トークフォークダンスを通して、クラスのまとまりと自他を尊重する態度を育てる。

【価値的・態度的側面】

○自分にとって短所だと思っている事柄も、視点を変えればよい個性であり長所であることに気づき、日常生活でも生かそうとする態度を育てる。

【価値的・態度的側面】

○他者の性格や行動を、前向きな視点で捉えて表現する姿勢と、それを伝えるコミュニケーション技能により、円滑な人間関係を確立する上での基礎となる意識を育てる。 【技能的側面】

9 本時案

(1) 本時の目標

・リフレーミングされた表現を他者に伝えることや、受け止める側の素直な受け答えにより、お互いが尊重されるべき存在であることに気づくことができる。

【思考・判断・表現】

・クラスの良さや自他の価値を再発見しようとする、積極的な意思や態度でトークフォークダンスに参加しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展 開

人権教育の視点から特に重要なこと……★

	生徒の活動	教師の指導・支援	評価規準及び 評価方法
5 校 時 ( 導 入)	演題：みんなの 良いところ 講師：稲田尚久	○講演の前に、リフレーミングの考えや他者の良いところを見つける行動をとったことに触れ、講演を自分事として捉えるように伝える。 ○ワークシートへの記入がうまくできていない人に記入を促す。	ワークシートの講演メモの記載から、リフレーミングやアサーティブコミュニケーションについて理解している。 【知識・理解】
展 開	<b>めあて：相手を思いやる気持ちを持つことで、自分の価値に気づき、これからの自分の行動について考える。</b>		
	トークフォーク ダンス (27分)	○クラスごとの3つの集団に分かれ、椅子に座らせる。 ○一人30秒で、相手の良い活動や頑張っていることを相手に伝える。 ○伝えられたら「ありがとう」と答える。 ○時計回りに回り、それをメンバー分だけ繰り返す。  ★対話ができている場合は、これまでに言われた意見を自ら伝え、相手に受け止めてもらうことで、相互の理解を深めるようアドバイスする。	ワークシート①～③の記載から、クラスや自他の良さを再認識している。 【思考・判断・表現】
終 末	振り返り (11分)  全体共有 (発表) (7分)	○ワークシートに振り返りを記入させ、何人かに感想を発表させる。  ★他者への思いやりや自分の価値を感じる表現になるよう自分らしい言葉でワークシートに記入しようとしている。  ○稲田氏からの講評。	ワークシート④の記載から、今日学んだことを今後の自分の行動にどのように取り入れようとしているか。 【主体的に学習に取り組む態度】
<p>【達成された姿】</p> <p>他者の短所はよく見えてくるが、その視点を変えることができれば、誉め言葉として相手に伝えることができる。また、自己肯定感の低い生徒にとっては、認めてくれる部分を知ること、前向きな自分を伸ばしていけるようになる。</p> <p>他者の行動を観察することで、視野を広げ様々な場面で、自分の良さを意識することができるようになり、今後の自分自身の行動変容につなげることができる。</p>			

(3) 準備物

ワークシート、筆記用具

<当日の様子>



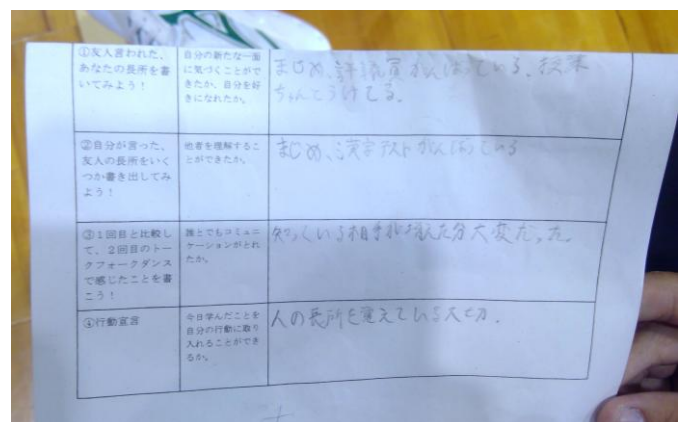
- ・「チーム力」について考えるワークショップをおこなっている場面。
- ・指の上にフラフープを乗せ、指とフラフープが離れないように4人で同時に下げていく。
- ・不思議なことに声を掛け合わないと、上になっていってしまう。



- ・稲田氏による講義場面。
- ・「元々人間はネガティブ思考なので、他人との違いをすぐ意識してしまう。上手な人間関係を築くためには、自分の考えを押し付けないようにすることが大切。他人と過去は変えられないが、自分を変えられる。」などを生徒に伝えた。



- ・トークフォークダンスの場面。
- ・トークテーマは、「友達の良いところ、頑張っているところ」
- ・クラス・科単位で30秒間で相手に伝え合い、「ありがとう」で終わる。
- ・その後席を隣に1つずらし、異なる友人同士で伝え合う。



- ・トークフォークダンス後のワークシート
- ・生徒の振り返りの一部
- 「これから自分の友達の良いところを見つけるようにする。」
- 「友達から言われた自分の良いところを、日常生活に活かしていきたい。」
- 「自分の長所がわからなかったけど、人に言われて大切にしていきたい。」
- 「クラスのみなどと、これからも仲良くしたい。」

**めあて：相手を思いやる気持ちを持つことで、自分の価値に気づき、これからの自分の行動について考える。**

【講演メモ】 講師：岡山コミュニケーション研修講演企画 代表 稲田 尚久 様

印象に残ったキーワード →

**リフレーミング：物事の見方を「枠組みを変えて」捉え直す。ネガティブをポジティブに変える。**

**トークフォークダンスルール：30秒交代。発言を否定しない。相手に「ありがとう」と伝える。**

【振り返り】

①友人言われた、あなたの長所を書いてみよう！	自分の新たな一面に気づくことができたか、自分を好きになれたか。	
②自分が言った、友人の長所をいくつか書き出してみよう！	他者を理解することができたか。	
③1回目と比較して、2回目のトークフォークダンスで感じたことを書こう！	誰とでもコミュニケーションがとれたか。	
④行動宣言	今日学んだことを自分の行動に取り入れることができるか。	